

# 「クリスマスの如きさま」

マタイ 1:17 ~ 25

カナダのオタワでダニー・シンプソンという人が銀行強盗を働きました。彼はお金に困って銀行で6000ドルを強奪して捕まりました。6000ドルと言えば約60万円です。彼はたった60万円のために刑務所に入らなければいけなくなりました。しかし、この事件は別の意味で話題になりました。それは、彼が銀行強盗のために使った銃のためです。彼の家にあったこの銃は少数限定生産されたアンティーク銃で、その値打ちは少なく見積もっても10万ドル(約1000万円)以上したそうです。もし彼がこの銃の本当に価値を知っていたなら、銀行強盗のような愚かなことをしなくても済みました。この銃の価値を解るアンティークショップに持って行けば高い値段で買い取ってもらえたからです。この出来事は私たちの人生や生活によく似ています。私たちは自分に与えられている価値を理解していないと、それを全く別のものに使ってしまいます。タイトルにある「如(し)きさま」は「ごとき」という意味です。これを「いきさま」と読んで聖書を見ていきましょう。先週はマリアから聖書を見ていきましたが、今週はヨセフから見ていきます。

## ■ 憎しみは判断を誤らせる

詩編143編はダビデが息子アブシャロムの反逆にあつて追われている時に歌ったものとされています。アブシャロムは自分の妹のタマルが兄のアムノンに乱暴された事に怒りを覚え父ダビデに訴えました。しかし、ダビデも自らの父親との関係に問題があったこともあり、アブシャロムの訴えに対してアムノンを正しく裁くことが出来ませんでした。そのためアブシャロムは父ダビデに対して怒りを燃やそうになり、何年もかけて反逆の計画を立てていました。このように憎しみは判断を誤らせます。アブシャロムは父ダビデが兄であるアムノンを裁かなかったことに対して怒りを燃やし、自らの手で裁きを行うことを決心しました。人が王となるというのはこのような状態です。私たちは自らの価値観を正しいと思って生きてきたのですが、その家に流れる様々な良くないものも追って生きていく道を選ぶことです。しかし、それらを捨てて神の元に帰る決断をする時がクリスマスです。

## ■ 神の言葉に素直に

マタイ1章でヨセフはマリアを愛していました。そのためヨセフは考えを巡らしていました。マタイ1章19節には「夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。」と書かれています。「彼はこのことを思い巡らしていた」20節。私たちが思い巡らすと言う時、良くないことを考えることも多いと思いますが、ヨセフは違いました。20節から25節にはこのようにあります。「彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。』ヨセフは素直でした。これがヨセフの良いところです。私たちが素直でありたいと思います。

## ■ マタイが伝えたかった事

マタイ1章17節できれいに十四という数字が並んでいます。しかし本当はもっと多くの子孫が存在しています。ではなぜマタイは十四という数字を強調したのでしょうかヘブル語の場合、言葉がそのまま数字をあらわします。ヘブル語でダビデの3文字を見ると、4+6+4つまり14という数字が浮かび上がってきます。また、1節から系図が書かれていますが、6節のダビデの時だけ、ダビデ王という呼び方をしています。つまり、マタイはダビデを中心として、ダビデ王のような王がこの世に生まれるのだ、ということ伝えたかったのです。

## ■ 神を愛する人は神の命令を守る

ダビデはサウルに命を狙われている時、何度もサウルを倒すチャンスがありましたが、「主に油そそがれた方」に手をかけること

をしませんでした。それどころか、用を足すために洞窟に入ってきたサウルの上着の裾を切り取った事を後悔しています(第一サムエル24章5節)。理不尽なサウルに対して、ダビデはこのことを悔いています。これはイエス・キリストの十字架の姿に似ています。神を愛する人は神の命令を守る人です。だから神は「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」マタイ22章37節、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」マタイ22章39節と言われました。私たちが愛に生きましょう。

## ■ 信じて従う

ヘロデ王は東方の博士たちが来た時、博士たちに「私も拝みたいから」と嘘を言ってキリストの生まれた場所を聞き出そうとしました。しかし、夢で博士たちは「ヘロデのところへ帰るな」と言われたため、ヘロデのところに行きませんでした。ヘロデは怒りのために2歳以下の子供を皆殺しにするという暴挙にでました。自らが王になるとはこのようなことです。ヨセフはこのような出来事の中でエジプトに逃れなさいと言う言葉を聞いて、マリアを連れてエジプトに行きます。その後、イスラエルに帰ってきますが、エルサレムから遠く離れたナザレに住みました。ヨセフは御使いから聞いたように子供にイエスと名付けていました。名前をつけるとは信じて従ったと言うことです。あなたに与えられた使命とは何でしょうか？私たちが自らの計画と神の計画のどちらを選ぶか、クリスマスの時に決断しなければなりません。

## ■ クリスマスは私利と公利(他者利)との戦い

人のものを奪わなくてもあなた自身に与えられているものを受け取ることが出来ます。あなたが立てた計画が壊れた時がそのチャンスです。どこを悔い改める必要があるのか、そのことを考えるチャンスです。ヨセフは自らの計画が崩れ去った時、神の声に従いました。私たちがヨセフのように自らの計画が失われた時に神の声に従いましょう。

## ■ 示された道への決断！！

思い巡らすことは誤った決断を生むことにつながります。寝床で夜な夜な思い巡らすことをやめましょう。過去に基づく判断は間違った結果を生みます。闇は私たちに何も生みません。闇を捨てましょう。闇を捨てるには光を灯すことです。

## ■ 信じ続ける！！あなたの役割

あなたの役割を信じ、そして隣の人の役割を信じなければいけません。たとえ小さな光でも、1万個集まれば世界を変えます。一粒の光が大切なのです。しかし、それが合わさるから恵みなのです。だから神様は教会を作られました。「ふたりでも三人でも、わたしの名によって集まるところには、私もその中にいるからです。」マタイ18章20節。暗闇は押し迫ってきますが、光は闇に打ち勝ちます。神の言葉があなたの中に生きるなら、この暗闇の地を照らすようになります。だからあなたの役割を果たさなければなりません。役割を果たさなければこの地は暗闇のままです。自分がどのような価値を持っているか、自らの持っているピストルにどんな意味があるかを知らなければなりません。みことばは我が道の光、わが足の灯火です。このみことばに心を開きましょう。

## ■ まとめ

クリスマスは決断です。クリスマスはイエス・キリストの存在を知る時です。ヨセフの信仰を知る時です。ヘロデのようにならない事を決断する時です。心を神様に向け、自らの心が今のままで良いかを考える時です。自らの計画が崩れ去った時、神様に祈りましょう。ダビデは我が子に命を狙われる時に神に祈りました。そして平安を得ました。暗闇の心を照らしてもらって下さい。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼と共に食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」黙示録3章20節

(要約者:日名洋)

(2020年12月13日)